

人文会 ニュース

定価を考える
人文会特約店について
本を売ってみて
試行としてのブック・フェア
版元側の「覚書」の現状
新刊目録

'75. 3

7

E・フロム / 新刊

精神分析の

危機

岡部慶三 訳
B6二六四頁
価七〇〇円

現代社会科学叢書

既刊28点 目録呈

危機に立つ精神分析、もしそれが個人に係わり合うことに専念するならば、精神分析は滅びるであらう。著者は9章にわたり、マルクス、フロイト等をとりあげてこの重大な警告を展開。

翻訳権所有

東京創元社

古代日本の復原をめざすシリーズ

日本古代文化の探究

全10冊

既刊4冊

四六判・各二二〇〇円

大林太良編 人間が人間たるに不可欠の要因火について、専門各分野から検討、火の文化を解明する。

火 隼人

大林太良編 これまで日本古代史の中で無視されてきた異種族の問題に光をあて、その文化の復原に挑んだ

馬

森浩一編 古代史の謎を解くカギ「馬」を論述。

鉄

森浩一編 新しい古代研究のために問題提起。

東京都文京区本郷1-25-121
TEL03(813)8101

社会思想社

心理学研究法

11

面接

続 有恒編
村上英治

面接の二つの代表的技法、臨床的面接法と調査的面接法について、概説するとともに、面接者の資質、訓練と、方法論的検討をあわせて論述。 価一八〇〇円

全17巻
既刊11冊

10 観 察 一六〇〇円
12 臨床診断 一六〇〇円

一三東京文京
内容見本送呈

東京大学出版会

鈴木大拙禅選集

《新装版》全11巻・別巻1

世界の禅者大拙博士の名著選!

101 東京都千代田区
外神田二一八

春秋社

- ① 禅の思想
 - ② 禅問答と悟り
 - ③ 禅による生活
 - ④ 金剛經の禅／禅への道
 - ⑤ 禅百題
 - ⑥ 禅堂の修行と生活 他
 - ⑦ 禅仏教入門
 - ⑧ 禅とは何か
 - ⑨ 禅の見方／禅の修行
 - ⑩ 今北洪川
 - ⑪ 東洋的な見方
- 別巻 鈴木大拙の人と学問
- 全12冊セット 価七二〇〇円
小B6上製 各六〇〇円
内容案内呈

こころの旅

神谷美恵子著 九八〇円

人のこころの旅路は三界をめぐるものである。そこにはたちむかわなければならない風が吹きすさび、越えなければならぬ峠がいくつもある。本書は視野のひろい、体験ゆたかな一精神科医が、あたたい筆で人のこころの一代を語る名作。

日本評論社

東京新宿須賀町
振替・東京16番

賤民の後裔

わが屈辱と
抵抗の半生

北原泰作

昭和2年、軍隊内の差別に憤り、特別大演習の時に行った北原二等卒の「天皇直訴事件」の全貌をはじめ、「衛成刑務所」の戦慄的な内幕の暴露など、未解放部落に生まれ今なお一貫して差別と闘い続ける著者半生の解放運動史。

1200円

筑摩書房

東京
神田

定価を考える

代表幹事 中 平 千三郎

出版科学研究所の調査によれば、昭和49年度の出版物の売上げは8,000億をこえたという。

すなわち書籍は4,260億で前年の33%アップ、雑誌は4,182億で27%アップである。雑誌は別として書籍だけ見ると、平均定価は重版こみで765円で21%のアップ。新刊だけでは884円で18%のアップとなっている。これは部数と定価を掛合した総合的平均であり、単純に点数だけで平均すれば1,528円となっている。人文図書の関係では次の通りである。

	点数	部数	定価	平均定価
哲 学	3.5	-2.8	25.4	1,500円
歴史・地理	0.6	0.4	26.0	850円
社会科学	0.8	-0.3	25.7	940円
総 計	0.4	3.9	21.2	765円

点数、部数、定価はいずれも前年比の%をあらわしている。総計は10進分類法による総記から文学までの合計を示している。哲学部門の点数が3.5%アップして部数が逆に2.8%ダウンしているのが注目される。これは発行部数の数値であるが、実売部数は1月から11月の累計推定で前年同期の12%アップであり定価の値上り21%と合せて前述のように33%のアップということになる。50年度は部数で5%定価で15%計20%のアップと予測されている。本年ならばこの逆が好ましいあり方だ。

次の表を見ていただきたい。これは人文会に所属してはいないがある人文系の中堅出版社の定価と部数の相関関係を示した試算である（原価率40%の場合）。

例1の場合では1,000部に対して2,500部になれば、定価は約半分の53%にさがり、4,000部でも41%にとどまる。例2の場合ではいささか数値がことなるが、それでも2,500部で58%、4,000部で48%である。これは少数部における固定費、主として組版代等の比重がかかり、変動費が少いことを示しており、1,000部、2,000部、3,000部という標準的な出版物における定価と部数の

(例1) A5判上製 304頁 (8P2段組み)

部 数	1,000	1,250	1,500	1,750	2,000	2,250	2,500
定 価	4,160	3,560	3,100	2,750	2,510	2,360	2,200
指 数	1,000	856	745	661	603	567	530
				指 数	1,000	940	876

2,750	3,000	3,250	3,500	3,750	4,000
2,120	2,000	1,930	1,850	1,770	1,710
510	480	464	445	425	410
845	797	769	737	705	681
指 数	1,000	965	925	885	855

(例2) 四六判上製 168頁 (9P1段組み)

部 数	1,000	1,250	1,500	1,750	2,000	2,250	2,500
定 価	1,714	1,530	1,326	1,207	1,128	1,064	1,000
指 数	1,000	893	774	704	658	620	583
				指 数	1,000	943	887

2,750	3,000	3,250	3,500	3,750	4,000
963	936	910	880	855	830
562	546	531	513	499	484
854	830	807	780	758	736
指 数	1,000	972	940	913	887

関係がよくわかる。

もちろん、初版は1,000部、2,000部でもロングセラーとなって毎年2,000部、3,000部と売れるものが、人文図書には少ない。しかし一般的にいて初版定価の高いものは売足が鈍いのは前にあげた平均定価からみても推測出来る。出版社は初版の部数と定価について一番苦心している。単純にコスト計算だけでは割り出せないからだ。それでも狂乱物価にともなう異常なコスト高は、そのような配慮の余地をすっかりなくしてしまった。この難局を打開する方法はないだろうか。

先日、国会図書館の有志の方々に学術出版の現状をお話しする機会があったが、上記の数表を引用して、図書館がある一定部数を確実に保証してくれるならば、出版社はより安く、より多くの図書を提供することができると要請した。特殊の学術書ではない人文図書の場合、すぐれてこの事がいえる。

最近出版界と図書館界のコミュニケーションが俄かに活潑になってきて、いろいろな場所で両者の話合がすすめられているが、その話題の一角が出版社がわから見たとき、この比較的小部数の場合の購入組織であり、図書館から見れば必要図書の入手難である。ベストセラーが来ないとか、注文がおそいとかいうのは現在の流通問題一般だが、入手不能書が目立って来たのが問題になっている。出版社がわかっている、品切とか、不扱とかで入手出来ない。ここでいう図書館は主として公共図書館を指すのだが、概して図書館は地域社会の利益を考慮して地元書店と取引している場合が多い。その書店が収書能力が低いのか、あるいは図書館との取引条件から見て、手間ひまかけるのをさけるのか、どちらかだと思う。

人文会の特約店は、この現状を打破して積極的に図書館の収書にご協力いただきたい。その努力の蓄積が必ず大きな利益をもたらす筈だ。図書館は読者の代表であり、読書の組織であるからだ。図書館に一冊の本を納入することは、ただ一冊だけの販売ではない。丁度常備寄託の一冊の本が売れることと同じようにその一冊のなかに多くの可能性が内包されているのである。人文会各社はこのような特約店を期待している。

定価を考えるにあたっては、当然生産原価をふまえた価格構成と、流通部門における再販制度の検討がなされねばならない。ここでは定価と部数の関連だけを見たが、いづれ出版の開発に関する研究が進むにつれて、問題の所在と解決の方向が明らかにされることであらう。

人文会特約店について

東販書籍販売部次長 関 根 登

A 取次会社としての考え

最近の出版業界における関心事の一つに、責任販売ということがあげられています。これは、委託販売制度がいままで、出版業界の発展に流通面で大きく寄与してきましたが、近年経営諸条件の悪化にともない、欠陥である返品量が現時点で許容限界に達しているので、物流体質の改善を図る版元、取次会社の切なる要請であります。

一方読者側からは、出版洪水といわれ、出版点数が増大し内容が細分化されればされる程、かえって書店における欲しい本との出会いは難しくなっている。これをなんとかしてほしいという入手難を訴える声を聞くことしばしばあります。

こうした一見二律背反とも思える現象を解決する接点として、特約店制度が採用されるに至っているものと考えられます。

年間2万数千点が刊行され、それが1万店を越える書店に、それぞれの都合により、散在展示されているとすれば、読者の入手した情報にしたがってどの書店でも自由に購入できることはまず不可能であります。そこで、せめて各分野別に（この場合は人文会）としてまとまった図書を、主要書店にルールをもうけて展示していただくことが、現段階では精一杯と思われれます。この制度は各出版社が、読者の要求する内容と受入書店のキャパシティが配慮されることを前提にして有効な方法となり得ましょう。更に特約店の存在が、地域における人文分野の情報センターとして、書店機能を満すことになり、出版界の前進につながる制度ともなりうるものと考えます。

B 特約店に対するお願い。

特約店としての役割を果し、相互にメリットをうみだすよう次の点について、ご協力をお願いいたします。

- ① 基本展示する常備寄託は人文会員社19社中、どの社のものが、自店の客層により適合しているのか、バランスはどうなるのか、入念な検討を加えて申込んでいただきたいと思います。（最低12社となっておりますが）

㊤ その結果受入れた商品は、人文会特約店常備品として、見やすい場所を確保し、全点展示を常時お願いします。

㊦ 売上スリップは、1カ月毎に必ず版元に回送して下さい。

㊧ 常備品展示だけでなく、出品版元の新刊は併列展示をぜひ励行して下さい。

(新刊案内には特に回答して下さい)。

㊨ 年間を通して、1～2回は、人文図書フェア・生協人文フェア等を企画実施して、販売を特に強化する期間を設けるようご支援下さい。

C 人文会に対してのお願い。

㊩ 特約店は、人文会図書の販売基地ですから、書店メリットをいま一步配慮していただきたいと思います。

㊪ 各書店から回送された売上スリップは、迅速に分析統計をとり、各書店に有効な販売データーとして、フィードバックして下さい。

㊫ 地域の読者PRを更に強化し、(自社発行の雑誌、PR誌・地方新聞の利用・学校、図書館、読者カードによるDM等)特約店への顧客の集中化を計って下さい。

㊬ 人文図書は専門書から教養書まで、広領域に亘るため、読者対象が漠然となりがちであるので、人文会版元共通の<部門>を明示した特約店用常備補充スリップを作成挿入して、見やすい展示が(シリーズ管理)できるようにして下さい。更に出来れば、色別にして内容の程度を<學術書><入門書><研究書>等の区分が棚担当者に容易にできるように工夫し、販売の基本である単品管理の便となるようにしていただきたいと考えます。

㊭ 特約店の店主だけでなく、実際の棚担当者を中心とした、話し合いの場、あるいはスペシャリストによる研修の場を定期的に実施して下さい。(書店が参加しやすい方法)

又、おぞなりの研修旅行はやめて、テーマをはっきり決めた書店見学等も計画して下さい。

以上、紙面がつきましたので筆を擱きますが、変革期を迎えての出版業界の発展に寄与できるよう、発想の柔軟性と前向きの姿勢をもって、特約店制度の進展に努力していきたいものと考えております。

以 上

〈本〉を売ってみて

大阪旭屋書店本店 海 地 信

20年余りも本屋に勤めていて、この数年ほど仕事をおもしろく感じることはなかった。

店頭に立って、いわゆる「本」を売る仕事についたのは、5年前である。20年も勤めていながらである。

本を売る仕事について、ルポ・ライターの沢木耕太郎氏が、マンモス書店K書店で一日店員として、店頭に立っての感想を、書評紙に、「単調でつまらない労働だ……」と書いていたが、皮相なみかただと思う。

誰も何冊かの好きな本をもっているものだが、わたしも、わたしなりに何冊かの好きな本がある。その好きな本をたずねられたとき、あるいは購められたとき、その嬉しさは、何年来の知己に出逢ったように嬉しい。

こういう気持ちは、店頭で働いていないことにはわからないことだろう。

だが、それは、お客とむかいあった場合だけのことではない。その本が、棚からぬけていることに気づいたとき、売上カードのなかにそれを見つけたとき、何ともいえない気持ちである。と同時に、こんどはストックがあっただろうか、それが気になる。

一日店員では、こんな気持ちはわかってももらえまい。

こんな気持ちをわかってももらえるものを、部下のなかに見出したときは、娘のように感じ、恋人のように感じ、いとおしくなってくる。

お客さんは、棚（商品構成）をとおして、店の性格を理解し、また、なじみになってくれると思う。

そして、われわれは、お客さんと直接話しあわなくても、棚をとおして、お客さんとコミュニケーションを交わすことができれば、一人前だと思う。また、そうなってこそ、仕事の楽しさもひとしおかと思う。

それには、できるだけ幅ひろく、本を知らなければならない。

限られた時間で、お客さんと同じ量の本を読むのは、はじめから無理な相談である。で、とにかく、出版社のPR誌をめったやたらに読む。もちろん、おもしろくないところはどんどんとばして読む。

幸か不幸か、わたしは学校が嫌いで、上の学校へ進まなかった。そのことがながい間、コンプレックスになって、手当たりしだい本を読んだ。その習慣がいまもつづいていて、読むのは遅い方だが、活字に抵抗をあまり感じない。

それで感じるのは、読書のおもしろさは、独断と偏見を恐れないことだと思う。人もまた、平均的人間であるよりは、その方がおもしろいに決っている。本屋にしても同じだと思う。平均的な本屋はおもしろくない。何でも揃う大型店といっても、器には限りがある。何を捨て、何を集めるかがあって、はじめて本屋である。でないだろうか、……

平均的な本屋でも商売していくには不自由しないだろう。ただ、それでは本屋で働いているわたしたちが、おもしろく働けないだろう。

平均的な本屋を育てるのを促進しているのがコンピューター配本だ。

コンピューター配本でも（それでもいま以上にいろいろの要素を取り入れなければならないだろうが）まにあう場合もあるだろう。だが、人文関係の本は、ことのほか難しいだろう。

人文関係の出版社では、最近、新刊の委託注文制によるものが増えてきた。このことがコンピューター配本に限界を感じている証しといえるだろう。

だが、この制度も書店側の理解があって、はじめて生きてくる。

最低必要部数を仕入れて、売れば追加という方法がまま見受けられる。商売としては堅実かもしれないが、それでは、本そのものへの認識も深まらないし、大きな成長も期待できないのではなからうか。

その制度を利用し、試行錯誤をせいでいくらかえすことだ、当れば結構なことだし、はずれたときも、その経験が無駄にしないことだ。しんどいけれど、すぐに返さずにじっと抱いてみる。失敗の痛みを自分で受けとめてみることだ。

本屋の扱う商品は、それこそ「武芸百般」である。何に関心をもっても無駄にならないということはありがたいことだ。

活字を扱いながら、活字で理解できないものがある。音楽、絵画、工芸といったものである。そして昨今はやりのフィーリングという言葉がびったりする流行の周辺がある。

「以心伝心」というが、いつしかおなじみができ、いろいろ教えていただくことになる。教えを受けるにも用意がいる。

つたない自分の知識を小出しにしながらついてゆくが、追いつかなくなる。でも追いつけないことが結構たのしい。次回をお楽しみということになる。

そして、わたし自身信頼しうると思える著者のものは、多少厄介でも読むことにしている、時には、仕事のうえだけでなく、新しい展望がひらけるときがある。

また、新しい自分を発見することがある。

そうすることによって、仕事の拡がりが見つかるのだろう。

会員社常備入れ替えご案内

筑摩書房

3月、日販、大阪屋、栗田、柳原

7月、東販、鈴木、東邦、協和

青木書店

3月、日販

5月、栗田、中央社

6月、明文、日新堂

有斐閣

生協向常備のみ

3月、東販、日販、大阪屋、栗田、鈴木、明文、日新堂

未来社

3月、東販、日販、鈴木、大阪屋、栗田、日新堂、明文、太洋社

試行としてのブック・フェア

弘栄堂書店吉祥寺店 小 用 茂 夫

ブック・フェアあるいは特設コーナーと一口にいても、その対象・性格・規模でさまざまである。ここではそれを一書店の範囲での〈テーマ〉別のブック・フェアということに絞り、そのことと書店（員）の業務とのかかわりを、現場的な位置から考えてみたい。書店員の商品知識の低下ということが、書店をとりまく業界や、読者からことあるごとに取沙汰されている。その指摘されている事はといえば、商品構成・新刊注文・適切な読者対応・常備の選定など、書店（員）の業務の基底にかかわっているからことは現場において深刻である。

それでは書店（員）の商品知識の蓄積を妨げているいくつかの要因について感ずること。

「どこの書店にいても同じような本がならんでいて、欲しいと思う本が入手出来ない」という読者からの批判がある。特に人文・社会科学等多少専門的な読者層に多い。

多くの書店の棚の平均化ということが生まれた背後には、まず大多数の読者の嗜好や要求に合わせて、膨大な量の既刊書を棚へ納めることなどとてもできないという、スペースの物理的限界ということがある。

それに関連して、版元が生産し流通パターンにのせ、書店へ次々と送り込まれてくる新刊・重版書を、無自覚に棚につめ、売れ方を十分検討せず売り切れし、あるいは返品するという業務のリズムがある。

そして各版元の一般的な売行良好書や常備を、ワンパックという上積みで安易に受け入れることなどの業務のくりかえしのなかで、書店（員）の記憶に商品が定着しにくいという事態も、ひとつの要因としてかかわっている。

この〈平均化〉批判が、一定地域に一店というような書店に向けられたものではなく、大型店のせめぎあい林立する地域にある書店に向けられているということに、より傾聴すべき意味がある。

また書店が大型化すればする程、棚は細分化される。ジャンルの多様化とともに、新書・叢書という総合シリーズが、単行本のジャンル構成の棚とは別個

な場所へ並べられるのが一般的である。

しかしこの場合、たとえば読者がシリーズに入っているという手掛りを持っていなければ、その本を発見するのは至難のわざである。代替不能という書籍の特殊性からすれば、売り損うということになり、また関連商品であるという側面からは、限られたスペースのなかの相剩売りという効果を低下させていると思われる。

しかし現実的に判型の違うものを同じ棚に並べることが、技術的な面からしても、シリーズ自体としての効果からねらいも不都合が残ってくる。

とすれば、その空間的なたちぎれを新刊の並べ方や、読者などへの対応として補うのが書店（員）であるべきだろう。だが棚の配置に合わされて担当者がついているために、内容関連的な把握が人的にも分断され、できにくいといううらみがでている。

書店（員）の仕事内容のあいまいな繁雑さと、慢性的な手不足により、眼の前の販売・補充・注文などで手一杯なため、商品の十分な検討及び総体的な商品の把握と単品管理・新刊の追跡調査等が、満足な体制でできず、個々の版元・取次店の情報・新聞広告等商品知識に関する情報に、その必要性を感じながらも近視眼的対応を余儀なくされている。

商品知識の蓄積についての、阻害要因のいくつかは、以上の問題に即して、テーマ別のブロック・フェアを考えてみたい。

① まずくテーマという問題の設定と、文献資料収集の準備作業から始まる。通常の棚の新陳代謝によってこぼれ落ちた本や、書店（員）の記憶から失われた本などを、テーマの系列で汲みあげ再構成し選定する。

② 資料の収集・選定は、あくまで単品としての本＝著者のテーマとの関係と内容に基づいて行なう。判型種別や版元の規模の大小にとらわれないことによって、読者にはひと目でわかる構成をもって、販売の相剩作用を計ることが可能である。一方、書店（員）はジャンルの部分的ではあるが、深みをもった商品知識が約束されると同時に、関連的な把握の方法的な足がかりへの保証となる。

③ 収集選択した本は、目録化し常時閲覧可能なかたちで残す。

④ また、目録の書店的な裏付けを得るには、期間中における、単品別のスリップ集計を行う。このことにより、その指し示された数字の分析から既存の棚の点検を行い得る。

テーマ別という部分的総合スタイルをとるため、そのジャンルにおける地域

的な特性が測れ、ある程度客層に根ざした棚構成が期待できる。また指数選択のふりいからもれ落ちた本も、書店内目録で可視化され、欄内容の流動化や読者対応の必要性に応じて生かすことができる。

⑤ これらの作業過程は、部分的にでも共同であることが望ましい。それは、棚構成にあわせた人的な分断を結ぶモメントの意味をもつ、ということと担当者の経験的な相互作用を必要とするからである。

⑥ 期間を限定することにより、企画の内容やタイミングに左右されるが、集中的な効果をあげることができるという、販売メリットがある。売れ足が遅いため普段の棚には置けなかった本や、版元倉庫で断載の運命を待っている本などが、逆に目玉になり思わぬ売れ行きを示したりする。

しかし、期限つきということ、版元・取次店に特別なかたちで依頼し、その手間を受負ってもらわなければならない、売れ残った本の返品も不可能である。これらの労力に対してフェアであるといえども、安易であってはならない。予告や宣伝などにより期間内に最大限の読者集中を計るよう配慮し、先にあげた②③④の課題に責任を持つべきだろう。逆説的だが、書店はそれらを全うすることで、内容的なメリットも獲得できるのである。

ここでいうブック・フェアの版元—書店の流通関係では、〈テーマ〉ということから、本・著者の内容性格に必然的にかかわってくる。これらの作業を通じて、相互の検討が生まれれば質的な意味での流通の可能性を含んでいる、ともいえる。

⑦ ブック・フェアを、時々の事件やブームなどにあわせて企画をたてる場合や、特定のジャンルを強調してゆきたいという、思惑が書店にあって行いう場合。たとえば百貨店などの特設催物コーナーにおける「流行売り」や「客寄せ」的な、フェアそれ自体で完結する意味がある。

同時に、それが書店で催されるとき〈書籍〉にまつわる特殊性が考慮されなくてはならない。つまり、個々の本がそれぞれ非均質であり、他の本と様々に持続性をもちながらからみあって、商品として在り、その属性で本は買われてゆく、という点である。そしてこの属性を最終的に生かすのは、あくまで現場での通常業務においてであることを確認すべきである。

それでは、最後に、ここで日常の業務とフェアを相互の位置からもういちど視てみよう。

ブック・フェアの視座から日常の業務を負の面にとらえれば、前述したごとく、流通パターンと書店内の制約から業務内容がマンネリ化しやすく、平板

に流れがちである。したがって、書店の主体的方法が輩出し難い、ということがあげられる。

逆に日常業務を軸に同じようなとらえ返しをすれば、フェア自体が目的ではなく、あくまでひとつの手段でしかない、時間的にも一時的なものである。

ここから、＜日常業務＞↔＜ブック・フェア＞の回路が明確に据えられ、作業過程に組み込まれなくてはならない、と導かれる。

さらに書店員の人的・時間的要因を捨象して発展させれば、ブック・フェアの効果的要素は日常へ導入され、日常業務は再構成される。そこでは、ことさらフェアなど想定せずとも、その課題は日常業務へ抽出され果されるかたちが眺望できる。

以上、私の場における「案」である。

版元側の「覚書」の現状

人文会特約店委員会

人文会と人文会特約店との間にとりかわした覚書にもとづき、人文会加盟出版社がどこまで覚書の条文を実施しているか、を以下述べてみたいと存じます。

1. 新刊の申込による配本

現在小売店の申込部数のみを配本（全面指定）している版元は買切扱2社（未来社・誠信書房）委託扱2社（東大出版会・みすず書房）でございます。未定の社が4社ありますが、既に実施している版元を含め残りの11社は今年中に小売店よりの申込を受け、取次店にその実施方を依頼する（部分指定）方針でございます。

2. 常備店の選定

常備の回転を良くするため、競合する地域についての書店選定は、従来より一層厳しくなることと存じます。

各社の常備店選定の基準を調査しました結果一番多い要素は売上の実績（11社）次いでその地域の市場の大小（10社）、市場に見合った常備店数、新刊申込の返事が来る店、売上カードを送ってくる店、坪数、専門書販売に意欲のある店となっております。

立場を変えて考えて、書店がある版元の常備が欲しい時、買切って展示し（返品条件をつけて貰って）売上カードの送付、新刊の申込を毎回実行すれば、実績次第で常備店になれると存じます。

3. 常備品の選定

年3回転以上するよう品目の選定をするわけですが、現在17社がセット選択の常備を出品しており、特殊な書店について1点別の選択を受付けている版元は12社でございます。

4. 売行良好書の連絡

新刊案内において売行良好書の連絡をしている版元は現在14社あり、本年中には全社が実施する予定でございます。

5. 売上カードの回収

売上カードを回収している版元は現在14社あり、未定の1社を除き本年中に残る4社も回収を予定しております。

6. 売上カードの分析と報告

売上カードの分析は現在13社実施し、本年中に実施する版元は3社、未定は3社でございます。

又、小売店に報告している社は11社で、本年中に1社追加され、未定は7社でございます。

7. 販売協力金

現在、販売協力金（手数料）を支払っている版元は10社あり、本年中に5社追加されます。未定は4社でございます。

以上を要約した一覧表を次に記しますが、各項目について早く全社が実施できるよう努力してゆきたいと存じます。

書店の皆様方にも、ぜひ、ご協力のほどをお願い申し上げます。

アンケート集計表

特約店委員会

		青木 紀伊 勁草 現思 社思 春秋 誠信 筑摩 創元 東大 日評 福村 平凡 法政 みす 未来 有斐 吉川 理想																			
新刊	全面指定	買切 委託 委託 買切																			
	部分指定	○	○	50.9	○	50.10	○					50.7	○	○					50.3	○	
選常備定店	売上実績	○	○				○		○	○			○	○	○	○	○			○	
	市場性		○		○		○		○	○	○		○			○	○			○	
選常備定品	選択セット数	5	8	3	2	6	5	5	80	1	37	1	4	6	3	38	10	18	2	3	
	1点別選択店数	60		20	50	80	35				5	60			50	1	100		20	21	
売行良好書		○	○	○	50.9	○	50.10	○	○	○	○	○	50.7	○	○	○	○	○	○	50.3	50.3
売上カード	回収	○		○	○	○	50.10	○	○	○	○	50.3	50.7	○	○	○	○	○	○	50.9	一部
	分析	○	○	○		50.8	50.10	○	○	○	○	50.1		○	○	○	○	○			一部
	報告	○		○		50.10	○	一部	○	○				○	○	○	○	○			
販売協力金	1枚×円	7.5		5~7		5		5							5	5	10~30				
	定価×%										1%			1~2%				1%			
	予定年月				50.9		50.10						50.7						50.9	50.3	

新刊図書目録

自 昭和 49 年 12 月 1 日
至 昭和 50 年 2 月 28 日

哲 学・思 想

講座マルクス主義研究入門 1 卷

哲 学 芝田進午著編

戦後日本におけるマルクス主義哲学の到達点と
問題点、今後の研究方向を示す哲学入門。

四六判 300頁 ㊦1,300 [青木書店]

現代日本の技術と技術論 中村静治著

現代日本の産業構造を根底から問い直し、現代
における科学技術の問題を解明する。

四六判 280頁 ㊦1,400 [青木書店]

マルクス・レーニン主義哲学の基礎 上
ソ連邦科学アカデミー著
川上流編訳

マルクス主義哲学の基本問題を平易かつ系統的
に叙述した最新の哲学教科書。上巻は弁証法的
唯物論。

四六判 246頁 ㊦1,200 [青木書店]

中国・歴史・運命 一史記と史通一

大浜啓著

「史記」を通じて中国稀代の史家司馬遷の歴史
観・運命観を論究。劉知幾「史通」の史観も論
述する。

四六判 322頁 ㊦1,800 [勤草書房]

マルクス・エンゲルスと革命ロシア

和田春樹著

マルクス・エンゲルスのナロードニキ支持を論
証し、ロシアにおける土着的革命思想の意義を
解明。

A 5 判 472頁 ㊦3,300 [勤草書房]

現代生物学と弁証法 武谷三男・野島徳吉著

弁証法的視点から分子生物学に於ける進化論の
論理的基礎を追究し、モノーを哲学的に批判す
る。

B 6 判 280頁 ㊦980 [勤草書房]

福村叢書

若きマルクスとその批判者たち

山本晴義著

若きマルクス並びに同時代と、フランクフルト
学派等を、マルクス主義の正しい文脈の中に捉
える。

四六判 160頁 ㊦1,200 [福村出版]

叢書スヴェラージュ

国家とイデオロギー

ルイ・アルチュセール著
西川長夫訳

フランス思想界に大きな衝撃を与えた「イデオ
ロギーと国家のイデオロギー装置」他 4 編を収
める。

四六判 196頁 ㊦1,200 [福村出版]

フォイエルバッハ全集、第17卷

幸福論 船山信一全訳

「幸福主義」「著作家と人間」を収録し、人間
フォイエルバッハが感じられる本全集異色の巻

A 5 判 312頁 ㊦4,000 [福村出版]

叢書スヴェラージュ

マルクス主義と民族問題

ローザ・ルクセンブルク著
丸山敬一訳

ローザ・ルクセンブルクのポーランド問題を述
べた論文を中心に彼女の思想的変遷を示す書物

四六判 240頁 ㊦1,500 [福村出版]

叢書・ユニベルシタス

宗教とエロス

W. シューバルト著
石川・平田・山本訳

宗教とエロス精神に共通する 現象を分析し、
その本質的連関を探りつつその創造的統一を説
く。

四六判 400頁 ㊦2,000 [法政大学出版局]

叢書・ユニベルシタス

失われた範列 一人間の自然一

エドガール・モラン著
古田幸男訳

人間の本能(自然)への独自の論を展開しつつ
生物学主義、人類学主義をこえた新しき科学を
構築。

四六判 280頁 ㊦1,600 [法政大学出版局]

りぶらりあ選書

新しい芸術精神 一空間・光・時間の力学一

ニコラ・シュフェール著
渡辺 淳訳

新しい芸術創造においてサイバネチクスに基
づきながら空間と光と時間の力学的諸原理を説
く。

四六判 200頁 ㊦1,300 [法政大学出版局]

ウナムーノ著作集第 3 巻

生の悲劇的感情

ウナムーノ著
神吉敏三・佐々木孝訳

肉と骨の具体的な人間の不滅性を熱望し、信じ
ただ生きたために哲学したウナムーノの代表
作である。

四六判 350頁 ㊦2,400 [法政大学出版局]

叢書・ユニベルシタス

レーモン・ルーセル

ミシェル・フーコー著
豊崎光一訳

この狂気に満ちた作家の手法をを明らかにしつつ、言語の奥底に隠された言葉とものの関わりを追求。

四六判 272頁 円1,600 [法政大学出版局]

叢書・ユニベルシタス

ドイツ悲劇の根源

W・ベンヤミン著
川村二郎・三城満穂訳

17世紀バロック文学のアレゴリーという表現形式を歴史哲学的に究明するベンヤミンの名著。

四六判 312頁 円1,800 [法政大学出版局]

アインシュタイン平和書簡1 全3巻

ネーサン・ノーデン編
金子威男訳

第一次大戦勃発直後より死の直前までの40年間にわたって世界各国の人々と交わした平和書簡集。

四六判 280頁 円2,300 [みすず書房]

原初的条件 藤田省三著

50年代末から今日まで、顔麿と反動化との闘いのなかで書かれた状況批判の諸論考を中心に編集。

B6判 250頁 予価円1,000 [未来社]

古典派政治経済学と植民地

ウィンチ著
杉原四郎・本山美彦訳

「自由貿易帝国主義」論争に学説史的に照明をあて古典派経済思想の転回の必然性を明確にする。

A5判 282頁 円2,500 [未来社]

ヘーゲルとヘーゲル左派

レヴィット著
麻生 建訳

ヘーゲル哲学のマルクス主義への継承をめぐる思想の展開とダイナミズムを簡潔に描く3論文収載

B6判 150頁 円750 [未来社]

教養全書

西洋哲学史 再訂版 岩崎武雄著

西洋哲学史入門として最も定評ある本の再訂版。古代から近現代までの哲学の歩みを平易に解説。

B6判 314頁 円1,000 [有斐閣]

宗 教

聖書を読むために 新井 智著

旧約・新約の時代の歴史を語り、近代聖書学の成果をもとに成り立ちを示し、その最良の読み方を示す。

四六判 288頁 円1,200 [筑摩書房]

正法眼蔵用語辞典 中村宗一著

道元の無限に深い絶対的な表現を客観的にかつ総合的に解説し、読者の要望に応えた便利な辞典。

A5判 622頁 円5,800 [誠信書房]

全11巻・別巻1巻

<新装版>鈴木大拙禅選集 鈴木大拙著

不世出の禅者鈴木大拙博士の最もポピュラーな名著を全11巻・別巻1に結集!

小B6判 平均200頁 セット価円7,200 [春秋社]

心 理

心理学 堀ノ内敏編著

教育の場において中心的役割を果たしている心理学を、多くのトピックスをとり入れ平易に解説。

A5判 212頁 円1,500 [福村出版]

心身障害児教育指導事典

伊藤隆二・今井秀雄・石部元雄
長畑正道・小柳恭治編集

心身障害児の指導のあり方を、家庭から、学校社会の全ての場を想定し、詳述した待望の事典。

A5判 804頁 円9,800 [福村出版]

障害児教育一般原理 石部元雄編著

心身障害児教育の原点を新たにとらえ直すことにより、障害児教育のあり方と研究方法を探る好著。

A5判 168頁 円1,300 [福村出版]

精神遅滞児の治療教育 西村順次郎著

白痴は宿命とあきらめられていた考えに挑み、着々と成果をあげている著者等の理論と実践の書。

A5判 152頁 円1,400 [福村出版]

催眠名著シリーズ2

催眠 X・バーバー著 成瀬悟策監修 戸田晋訳

一般心理学の概念を用い、催眠行動は課題動機づけによって可能なことを多くの実験で解明する。

A5判 262頁 円3,200 [誠信書房]

環境心理学(全6巻)

環境計画 5巻 H・M・プロジャンスキー他 入谷敏男訳

本書は、計画の技術と環境科学の結びつきを建築心理学と環境心理学の成果を駆使して解明する。

A5判 208頁 円2,800 [誠信書房]

基礎心理学 (全8巻)

行動生物学 6巻 P・ヴェンソマーズ著
岡島昭・江口英輔訳
人間や動物の種々の行動の根底にある生物学的
および生理学的現象を取りあげて解説した入門
書。

A 5判 240頁 ¥3,000 [誠信書房]

心理研究法11巻

面接 続有恒・村上英治編

臨床的面接法および調査的面接法の2つの代表
的面接技法について、その概説を行なう。

A 5判 280頁 ¥1,800 [東京大学出版会]

こころの旅 神谷美恵子著

本書は視野のひろい、体験ゆたかな精神科医
が、あたたかい筆で人のこころの一代を語る名
作。

A 5判 232頁 ¥980 [日本評論社]

叢書・ユニベルシタス

鍛えられた心

—強制収容所における心理と行動—

B・ベテルハイム著
丸山修吉訳

ひとつの極限状況、人間性を奪う強制収容所の
生活を描きつつ社会が人間に及ぼす力の限界を
問う。

四六判 340頁 ¥1,800 [法政大学出版局]

羨望と感謝

メラニー・クライン著
松本善男訳

幼児の母親の乳房とのふれあいから生ずる羨望
と感謝の感情が徹底して掘りさげられた症例な
ど。

四六判 205頁 ¥1,200 [みすず書房]

ゲシュタルトクライス

ヴァイツェッカー著
木村敏・浜中淑彦訳

精神医学、生理学、病理学の事例を用い新しい
人間学を創造する。

A 5判 390頁 ¥3,500 [みすず書房]

ストリンデルヒとヴァン・ゴッホ

カール・ヤスパーズ著
村上 仁訳

輝かしい天才と悲劇的な宿命の二人の実存の深
淵を開示するヤスパーズの卓越した病誌。

B 6判 226頁 ¥1,200 [みすず書房]

基礎知識シリーズ

臨床心理学の基礎知識 佐治守夫・水島恵一編

臨床心理学がこれまでに到達した研究成果を、
概念・技法・問題点の理解に役立つよう簡潔に
解説。

A 5判 324頁 ¥1,300 [有斐閣]

有斐閣双書

心理学 第2版

大山正・詫摩武俊・中島力著
17講形式をとって編集・執筆された極めてわか
りやすい一般心理学のテキスト。教養課程・短
大向き。

B 6判 234頁 ¥750 [有斐閣]

社 会

宗像誠也著作集3巻

教育行政の理論 黒崎 勲編

人間の尊厳を打ち立てる教育を追求した宗像教
育学の代表作である教育行政学に関する論文を
収録。

四六判 296頁 ¥2,500 [青木書店]

むらの日本人

—70年代・東北農民の生き方—

河北新報報道局編

むらとはなにか。—河北新報報道部員が東北六
県を取材した全く新しいタイプの日本人論であ
る。

四六判 300頁 ¥980 [勁草書房]

小倉金之助著作集第5巻

数学と教育 大矢真一・黒田孝郎
平田 寛・小倉欣一編

科学としての数学教育学成立の礎石を築き高等
(専門)数学教育と数学の大衆化を図る論文を
収む。

四六判 368頁 ¥1,800 [勁草書房]

社会問題研究第2～4巻 河上 肇著

著者の思想形成の礎となった個人雑誌『社会問
題研究』(大正8～昭和5) 106冊の復刻版。
全13巻。

菊判 平均438頁 ¥6,800 [社会思想社]

現代教養文庫834巻

冤罪の恐怖 青地 晨著

—無実の叫び—戦前、横浜事件で過酷な仕打ち
を受けた著者による冤罪告発の書。

A 6判 304頁 ¥360 [社会思想社]

ヒューマン・ブックス

老いの探求 橋 覚勝著

高齢化社会の到来によって老人問題はますます
鮮烈さを加えてきた。現代の世相に訴える入門
書。

B 6判 280頁 ¥2,000 [誠信書房]

社会福祉事業シリーズ

児童福祉 吉沢英子・吉岡富雄江・内田節子著
児童福祉の新しい展開のために本書は臨床的アプローチによってこの分野の中心的諸問題を解明。
B 6判 240頁 ¥2,000 [誠信書房]

翻訳シリーズ

人間の教育 J・ブルーナー著 佐藤三郎訳
ブルーナーの日本における講演・論文を収録し、知的教育の現代化について解説を付した好書。
B 6判 270頁 ¥2,000 [誠信書房]

都市病理講座(全4巻)

都市行動の病理 1巻 那須宗一・岩井弘融 大橋薫・大藪寿一編
現代社会の特徴をもっとも顕著に示す都市市民の行動の病理を、鋭い問題提起によって分析し解明。
B 6判 320頁 ¥2,500 [誠信書房]

思想史としての現代 住谷一彦著
毛沢東の長征、モーセの出エジプト等、歴史を転換させた運動を論じ、古代と現代を重ね合わせる。
四六判 280頁 ¥1,300 [筑摩書房]

現代社会科学叢書

精神分析の危機 エーリッヒ・フロム著 岡部慶三訳
人類がまさに逢着しようとしている生命への危機に対して精神分析のなしうる役割を執拗に追求。
B 6判 260頁 ¥700 [東京創元社]

社会学講座2巻

社会学理論 浜島 朗編
本書は、社会的分業と構造分化とのさまざまな関係や諸相と構造変動との関連を究明する。
A 5判 280頁 ¥1,500 [東京大学出版会]

アーバン・パターン ガリオン・アイズナー著 日笠 端訳
現代の都市は行きづまり状況を呈している。本書は最も望ましい都市計画を提案する。
B 5判 430頁 ¥6,000 [日本評論社]

女はすぐれている アシュレー・モンタギュー著 中山善之訳
女性の生来の性質、役割、立場を人類学、社会学、生物学の方向から分析・検討する。
B 6判 292頁 ¥1,200 [平凡社]

ロシアへの旅 ヴァン・デル・ポスト著 佐藤佐智子訳
集団主義的なソビエト体制の圧力を肌で感じ、人間の個性こそが国家を支えると示唆する。
B 6判 420頁 ¥1,600 [平凡社]

地獄のペン マーク・ウェイン著 佐藤 喬他訳
援助に名を借りた侵略や人種差別、白人民主主義とキリスト教文明を風刺と皮肉で暴き出す。
B 6判 250頁 ¥1,200 [平凡社]

りぶらりあ選書
アメリカン話への挑戦Ⅱ
一会社資本主義の経済の政治一

T・クリストフェル編 玉野井昌夫・藤井真人訳
体制内の具体的問題の告発、自由主義改革失敗の分析に続き、この国の革命の見通しをも展望する。
四六判 378頁 ¥1,800 [法政大学出版局]

宮本常一著作集18巻
旅と観光 宮本常一著
昭和14年より日本中を歩きつづけ、旅を愛する著者のエッセイを集める。旅のすすめ神髄である。
B 6判 340頁 ¥1,500 [未来社]

飛騨白川村 江馬三枝子著
大家族制、特異な婚姻習俗で知られる白川村を始め飛騨各地の民俗に関する江馬さんの著作の集成。
A 5判 650頁 ¥5,800 [未来社]

大間知篤三著作集・1巻
家の伝承 大間知篤三著
『家と民間伝承』におさまられたものを主体に、各地の隠居習俗・年齢階梯制等の調査報告を収録。
A 5判 500頁 ¥4,500 [未来社]

日間賀島・見島民俗誌 瀬川清子著
島の人々の生業、衣食住、通過儀礼、年中行事等、伝統的な村生活の全体像を伝える民俗誌二篇。
四六判 262頁 ¥1,300 [未来社]

ウォーターゲートの遺産 W・ポスト紙編 斎田一略訳
事件の過程を、ニクソンの政策・政治姿勢はもとより、その性格、心理などを多面的に描く。
四六判 360頁 ¥1,400 [みすず書房]

有斐閣選書

過剰モータリゼーションを考える

交通評論家集団編
わが国のモータリゼーションの現状と将来を法律・経済・社会等さまざまな断面から分析した本。

四六判 238頁 ¥850

[有斐閣]

有斐閣選書

社会保障法を学ぶ 小川政亮編

社会保障を権利として捉え、その法体系を展望。福祉問題の制度と運用の問題点理解に最適の書。

四六判 364頁 ¥1,100

[有斐閣]

環境法研究第1号

環境汚染と漁業被害

人間環境問題研究会編
環境汚染による物的損害・補償・費用負担などの問題を、特に漁業被害に絞って論じたもの。

A 5判 248頁 ¥1,200

[有斐閣]

評論

芸術創造の精神力学

バーバラ・ロイナー著
福原嘉一郎訳
芸術における無意識と意識、情緒と抽象の知性を分析し、現代芸術の創作状況と動向をさぐる。

四六判 210頁 ¥1,500

[紀伊國屋書店]

世界映画の体系と作風(2)

津村秀夫著
洗練された文体と豊富な映画経験に裏打ちされたカゼン、クレマン、小津安二郎ら10監督論。

四六判 288頁 ¥1,600

[勁草書房]

辺境レポート 井上光晴編

二つのことば二つのこころ(森崎和紅) 朝鮮の声(渡辺広士) 変形の日常(高野斗志美)ほか。

四六判 300頁 ¥1,500

[勁草書房]

但徠学派 日野龍夫著

江戸期文学に重要な位置を占めた服部南郭、太宰春台ら但徠学派の文学的営為を入念に後づける。

A 5判 232頁 ¥3,000

[筑摩書房]

追想芥川龍之介 芥川 文著

十八歳で芥川家に嫁いでから、龍之介の自殺までの十年間を、愛惜をこめて妻が語る文豪の秘話。

B 6判 248頁 ¥1,200

[筑摩書房]

リラダン全集第一巻

残酷物語ほか

ヴィリエ・ド・リラダン著
斎藤磯雄訳

壮麗な夢想と苛烈な諷刺に生じた孤高の小説家リラダンの文学はそのまま時代精神への批評である。

A 5判 592頁 ¥7,500

[東京創元社]

G・K・チェスタント著作集4巻

棒大なる針小 一文学論・随筆集一

別宮貞徳・安西徹雄訳
多芸多才なチェスタントの業績のうち、今なお名文と謳われる随筆集「棒大なる針小」を収録。

四六判 324頁 ¥1,500

[春秋社]

G・K・チェスタント著作集5巻

異端者の群れ 別宮貞徳訳

文学・宗教界における当世風正統思想の偽謬と異端性を痛烈に駁し「正統」の対をなす初期傑作。

四六判 288頁 ¥1,500

[春秋社]

私版本・柳宗悦集5巻

丹波の古陶 柳 宗悦著

丹波窯五百年の過去の塵を払って古陶に生命の息吹を甦らせた、その写真と理論の集大成。

菊判 128頁 ¥3,000

[春秋社]

カラマーゾフの王国

ウオルインスキイ著
川崎 淑訳

『カラマーゾフの兄弟』研究、熱っぽい語り口で文学における「情熱の原点」を論ずる。

四六判 284頁 ¥1,500

[みすず書房]

幸福の実験

G・R・ティラー著
田中 淳訳

技術の急速な発展と膨脹に揺れ動く現代社会の特徴を捉え、いかにしたら幸福な社会がつけられるか。

四六判 360頁 ¥1,500

[みすず書房]

エディターシップ 外山滋比古著

広く文化としてのエディターシップを論ずるもので、ユニークな文化原理を提示している。

四六判 196頁 ¥1,000

[みすず書房]

武井昭夫批評集1巻

戦後芸術とアヴァンギャルド

武井昭夫著
マルクス主義の立場から戦後文学、思想状況にラジカルな批評を試みる著者の50年代の活動の成果。

B 6判 380頁 ¥1,500

[未来社]

歴史

現代歴史学の成果と課題3巻

市民革命から帝国主義の成立

歴史学研究会編

市民革命から資本主義世界の拡大する60〜70年代初頭の研究を全面的に総括する。

A5判 166頁 ¥1,200 [青木書店]

春闘の歴史 小島健司著

戦後日本における賃金闘争の歴史を、春闘の闘いの中で政治、経済の関連において解明する。

四六判 240頁 ¥1,000 [青木書店]

江口朴郎著作集3巻

現代における平和と社会主義

荒井信一監修

戦争の歴史的考察、平和共存の意義と問題点。中ソ論争の歴史的究明などに関する論考を収録。

四六判 254頁 ¥2,200 [青木書店]

講座マルクス主義研究入門4巻

歴史学 永原慶二編

戦後日本のマルクス主義歴史学の直面している方法上・理論上の諸問題を重点的に究明する。

四六判 348頁 ¥1,500 [青木書店]

西アジア史研究 深井晋司編

世界最古の文明発祥の地であり、又最近脚光を浴びるようになった西アジア地域を解明する。

A5判 210頁 ¥1,800 [東京大学出版会]

戦後改革6巻

農地改革 東京大学社会科学研究所編

戦後30年を経た今日の視点で他諸改革との連関や改革後の変化をふまえて農地改革を捉え直す。

A5判 400頁 ¥2,800 [東京大学出版会]

古島敏雄著作集4巻

信州中馬の研究 古島敏雄著

中馬の成立過程・成立条件・宿場と抗争などを飯田町史料を中心に分析。

A5判 420頁 ¥3,000 [東京大学出版会]

古島敏雄著作集5巻

日本農学史 第1巻 古島敏雄著

農学の近代的研究のはじまる以前、江戸時代前期までわが国農学の歩みを解明。

A5判 520頁 ¥3,500 [東京大学出版会]

古島敏雄著作集6巻

日本農業技術史 古島敏雄著

原始・古代から江戸時代の終りまでの通史。今日でも学界唯一の農業技術史の専門書。

A5判 700頁 ¥4,000 [東京大学出版会]

服部之總全集第20巻

小ブルジョア・イデオロギー

奈良本辰也編

「啓蒙家羽仁五郎君の新ユトピア教条」「大塚史学の系譜」を始めとする興味ある好論文を収録。

四六判 272頁 ¥1,800 [福村出版]

新撰日本古典文庫2巻

将門記 林陸朗校注

平将門の承平の乱の顛末を記した書。綿密な本文校訂の上に注解補注を付し、年表・地図他収録。

A5判 310頁 ¥3,600 [現代思潮社]

日本庭園史大系第10巻

桃山の庭(三)

重森三玲・重森完途著

玉鳳院、松尾神社、頼久寺、旧松山城御根小屋書院址、等覚寺、桂離宮等等6庭園収録。

A4判 296頁 ¥8,200 [社会思想社]

日本庭園史大系第30巻

現代の庭(四)

重森三玲・重森完途著

常栄寺、友琳の庭、清澄園、豊国神社、城南宮、正覚寺、光清寺、島根県庁舎、鳥取県庁舎等11庭園。

A4判 268頁 ¥8,200 [社会思想社]

日本古代文化の探究

隼人 大林太良編

これまで日本古代史の中で無視されてきた異種族の問題に光をあて、その形体、文化の復原に挑む。

四六判 336頁 ¥1,200 [社会思想社]

日本古代文化の探究

火 大林太良編

人間が人間たるに不可欠の要因「火」について、専門各分野から論じ、日本古代の火の文化を解明。

四六判 320頁 ¥1,200 [社会思想社]

ゲルマン・ケルトの神話

トンスラ他著
清水 茂訳

ドイツとスカンディナヴィア諸国の天地創造からアーサー王伝説で名高いブリテンの英雄伝説など。

小B6判 180頁 ¥900 [みすず書房]

インドの神話 ウルセル他著
実田 稔訳
バラモン教、ジャイナ教、仏教、ヒンズー教な
どの宗教別に整理された雄大なインドの神話
小B 6判 180頁 ¥900 [みすず書房]

陸羯南全集 9巻 西田長寿・植午通有編
明治三十年代という近代国家日本の形成期に、
日々生起する事象を通して国民のあり方を説
く。
菊判 682頁 ¥900 [みすず書房]

ツヴァイク全集15巻

エラスムスの勝利と悲劇
内垣啓一・藤本淳雄・猿田恵訳
妥協を排する宗教改革者ルターと、協調和解を
旨とする知性の人文学者エラスムスとの対立を
描く。
小B 6判 330頁 ¥1,200 [みすず書房]

ツヴァイク全集21巻

時代と世界 猿田 恵訳
「リルケ」「ロラン」「カロッサ」「マラー」
「トスカニーニ」などについてのすぐれたエッ
セイ集。
小B 6判 350頁 ¥1,200 [みすず書房]

全体主義の起原 3 ハナ・アーレント著
大久保和郎・大島かおり訳
—全体主義— ナチズムとボルシェヴィズム
を全体の支配の二つの歴史的典型として論ず。
A 5判 368頁 ¥4,800 [みすず書房]

ティヤール・ド・シャルダン著作集10巻

ティヤール・ド・シャルダンの生涯
C・キューエノ著
実田 稔訳
波瀾に富んだティヤールの生涯を導いていった
主要な基本線を明かにする伝記である。
四六判 410頁 ¥3,500 [みすず書房]

ヨーロッパ・栄光と凋落
A. T. P. ティラー著
川端未人・岡俊孝訳
〔近代ヨーロッパ政治外交史論〕近・現代史に
おける重要事件、人物論等の生彩あるスケッチ
53篇。
A 5判 490頁 ¥4,000 [未来社]

叢書・ものと人間の文化史

ひな人形 斎藤良輔著
古来の民族の心性を秘めた人形として伝承さ
れ、ひろく親しまれてきた雛の祭りと信仰を集
成する。
四六判 230頁 ¥1,200 [法政大学出版局]

叢書・ものと人間の文化史

石垣 田淵実夫著
石垣の造成をめぐって幾百年と積み重ねられて
きた石工たちの知られざる苦闘の歴史を掘り起
こす。
四六判 260頁 ¥1,300 [法政大学出版局]

近世の琉球 渡口真清著
租税制度・土地制度・行政機構等の実証的分析
を通して、幕藩体制下における琉球の実像を描
く。
四六判 490頁 ¥3,000 [法政大学出版局]

江戸町人の研究 第四巻 西山松之助編
江戸町人の全分野にわたる体系を整備し歴史的
展開の実体を明確に論証した先駆的研究成果の
公刊書。
A 5判 予価¥4,300 [吉川弘文館]

ローマ文明の跡を訪ねて 浅香 正著
ヨーロッパ各地に残るローマ文明の遺跡を訪ね
著者永年の蘊蓄をかたむけ文明の流れを簡潔に
論じる。
四六判 374頁 ¥2,500 [吉川弘文館]

今川氏と観泉寺
観泉寺史編集刊行委員会編
今川氏の菩提寺観泉寺の関係古文書古記録史料
等多くの資料研究調査による観泉寺史と今川氏
の歴史を描く。
A 5判 852頁 ¥8,000 [吉川弘文館]

江戸幕府代官史料 村上直・荒川秀俊編
江戸幕府直轄領支配を全国的視野から郡代代官
所機構役人構成を記す県令集纂11冊の校訂翻刻
本。
A 5判 468頁 ¥7,000 [吉川弘文館]

近世海産物貿易史の研究 荒居英次著
蘭英両国の関係貿易史料による開港場輸出入貿
易の実態を解明紹介する研究成果の集成で画期
的な労作。
A 5判 614頁 ¥7,000 [吉川弘文館]

菅原道真と太宰府天満宮 上・下
大宰府天満宮文化研究所編
天神信仰は日本人の心に波打っているが天神伝
説を去除し真実の道真像と天満宮史を叙述する
労作。
A 5判 上540頁・下420頁 上¥4,500・
下¥3,500 [吉川弘文館]

荘園分布図 上巻 竹内理三編

全国凡そ3千の荘園所在地を国別に掲載その成立時代別本所領家名を記入全荘園史を巨視できる図鑑。

A 5判 224頁 定価未定 [吉川弘文館]

荘園史料叢書

伊賀国黒田荘史料 竹内理三編

黒田荘史料は今日もなお多くの中世課題を解明すべき内容を含む。関係文書千数百通を網羅した史料。

A 5判 272頁 定価¥3,500 [吉川弘文館]

寛饒の研究 楠田良洪著

平安時代高野山が生んだ偉人。新義真言宗祖寛饒のユニークな伝記で新史料を駆使し初めて解明された。

A 5判 502頁 特価¥6,500・定価¥7,000 [吉川弘文館]

鎮西御家人の研究 瀬野精一郎著

13,000通の鎮西中世関係残存文書を基礎とし御家人に関する諸問題と諸学説と批判中世史研究者必読書。

A 5判 546頁 定価¥4,800 [吉川弘文館]

日本宗教史研究叢書

一向一揆の基礎構造 新行紀一著

一三河一揆と松平氏一三河の中世史を克明な実地調査と新発見の史料で徹底的に解明した労作である。

A 5判 360頁 定価¥2,900 [吉川弘文館]

古文書研究 7・8合併号

日本古文書学会編
古文書関係諸論文研究ノート古文書解題史料紹介書評解説講座等古文書研究の総合機関誌。

B 5判 206頁 定価¥1,800 [吉川弘文館]

黒板勝美先生遺文

黒板勝美先生生誕百年記念会編
博士の偉大な事績と生誕満百年を記念して特別出版された貴重な史料調査報告等を収録する。

B 5判 350頁 定価¥4,800 [吉川弘文館]

大神神社史料拾遺篇 第四巻

大神神社史料編修委員会編
本巻には既刊(第一〜第三)に未収載のものと新発表されたものを採録。続刊=五巻・六巻・大神神社史一巻。

菊判 1,318頁 定価¥8,000 [吉川弘文館]

日本古文化研究所報告 全9冊 黒板勝美編

近畿地方古墳墓の調査、藤原宮跡発掘調査報告等古文化の総合的研究の成果。限定出版全9冊

セット販売

四六倍判 特価¥75,000・定価¥85,000 [吉川弘文館]

人物叢書172

大友宗麟 外山幹夫著

戦国キリシタン大名宗麟の領国支配体制を解明対外貿易その他波瀾に充ちた生涯を巧みに描く力作である。

小B 6判 344頁 定価¥950 [吉川弘文館]

第Ⅱ期全24巻

日本随筆大成 日本随筆大成編集部編

第二期全24巻完結セット販売中、分売価各巻¥2,200, 新組, 新解題, 付録月報添付。

四六判 平均450頁 セット特価 定価¥48,000 [吉川弘文館]

第Ⅰ期全22

日本随筆大成1.2. 日本随筆大成編集部編

第一期全22巻刊行開始2月より配本、一時払前金予約¥46,000(3月末日まで)絶賛の新版、史料の宝庫。

四六判 平均450頁 特価各¥2,300 [吉川弘文館]

中国革命と都市の解放 小林弘二著

新中国成立前後の数年にわたる都市主導型革命路線の支配的な時期の政治過程を分析した野心作。

A 5判 382頁 定価¥5,000 [有斐閣]

基礎知識シリーズ

日本史の基礎知識 杉原莊介・眞弘道・羽下徳金井圓・彦島海靖編

原始・古代から近・現代に至る日本史の流れを237の基本項目に分けて解説した水準の高い入門書。

A 5判 524頁 定価¥1,800 [有斐閣]

政治

中国共産党史資料集

日本国際問題研究所中国部会編
本巻は、連合国共同宣言発表の1942年1月から
テルラン会議開会の1943年12月まで資料75篇を
収む。

A 5 判 720頁 予価¥6,500 [勤草書房]

現代政治理論叢書15巻

ナショナリズムとその将来

K. W. トイッチュ著
勝村茂・星野昭吉訳
ナショナリズムの発展パターンを分析し、民族
国家から世界国家への展開過程を理論的に予測
する。

四六判 240頁 ¥1,800 [勤草書房]

数 学

紀伊國屋数学叢書3巻

ホモトピー論 戸田宏・三村護著

ホモトピー論の興味深いトピックを広くトポロ
ジー全般の視野から考察して、この分野待望の
書。

A 5 判 368頁 予価¥3,900 [紀伊國屋書店]

紀伊國屋数学叢書4巻

一般コホモロジー 荒木健朗著

発展著しい一般コホモロジーの理論を、その公
理系から説きおこして、最近の成果まで論及す
る

A 5 判 336頁 ¥3,500 [紀伊國屋書店]

その他

水＝生命をはぐくむもの

R・プラット著
梅田・石・西岡訳
水の物学化学から説きおこして生命の起原、生
物の進化に及び、水と生命の秘密を多面的に探
る。

四六判 360頁 ¥1,400 [紀伊國屋書店]

現代交通の理論 広岡治哉編著

交通・運輸政策のあり方が根底から問い直され
ている現在、交通経済論の再構築を試みる。

A 5 判 279頁 ¥1,900 [日本評論社]

人文会會員出版社名簿 昭和50年2月28日現在

社 名	担 当 者	〒番号	所 在 地	電 話
青 木 書 店	山 根 襄	101	千代田区神田神保町 1—60	292-0481
紀伊國屋書店	八 木 茂	102	千代田区五番町 12 ドミール 5 町 番	263-9006
勁 草 書 房	石 橋 雄 二	112	文京区後楽 2—23—15	815-5277
現 代 思 潮 社	田 浪 政 博	112	文京区小日向 1—24—8	943-4406
社 会 思 想 社	鎌 塚 正	113	文京区本郷 1—25—21	813-8101
春 秋 社	根 津 栄 二	101	千代田区外神田 2—18—6	255-9611
誠 信 書 房	宍 戸 玄 徳	112	文京区大塚 3—20—6	946-5666
筑 摩 書 房	米 原 秀 雄	101	千代田区神田小川町 2—8	291-7651
東 京 創 元 社	清 水 純 孝	162	新宿区新小川町 1—16	268-8231
東京大学出版会	中 平 千三郎	113	文京区本郷 7—3—1	811-8814
日 本 評 論 社	岩 田 新 造	160	新宿区須賀町 14	341-6161
福 村 出 版	福 村 惇 一	113	文京区本郷 4—23—9	811-0660
平 凡 社	今給黎 元 郎	102	千代田区四番町 4—1	265-0451
法政大学出版局	阿 部 好 文	106	港区南麻布 2—8—4	453-0717
み ず ず 書 房	相 田 良 雄	113	文京区本郷 5—32—21	814-0131
未 来 社	石 井 奈良彦	112	文京区小石川 3—7—2	814-5521
有 斐 閣	前 田 昌 男	101	千代田区神田神保町 2—17	265-6811
吉 川 弘 文 館	林 利 一	113	文京区本郷 7—2—8	813-9151
理 想 社	石 井 嗣 基	162	新宿区赤城下町 46	268-1306

後 記

教科書販売時期を迎えご多忙のことと拝察いたします。

人文会ニュース第7号は、まず「人文会特約店」実施にあたり、関根登東販書籍販売部次長より取次店の立場から、版元・書店に対して非常に貴重な提案をいただきました。また前号に引続き書店の現場担当者より、寄稿を受けました。皆様がたも仕入・販売の指針として、活用されることを期待いたします。

訂正

人文会ニュース第6号に誤植がありましたので、お詫びして訂正いたします。

誤

12頁 北九川市金栄堂柴田良平

14頁 池袋西口芳林堂書店仕入係長

鍋石嘉瑞

正

北九州市金栄堂柴田良平

鍋谷嘉瑞

誠信書房

東京都文京区大塚3の20の6

正法眼蔵用語辞典

中村 宗一 著

巨星道元の無限に深い絶対的な表現を客観的かつ総合的に解説し、全体にわたる詳解すべきターム、固有名詞のすべてを網羅し、読む辞典ととも年前の巨書の真意義を蘇らせた。読者の眼蔵理解に、強力な鍵となるものと信ずる。

A5判上製 定価五八〇〇円





G・R・テイラー 田中淳訳

幸福の実験

擬似原始社会へ向かつて

今日、先進社会は、未曾有の豊かな物質と効率的な諸制度とを手中にしながらも、人間の精神は荒涼たるスラムを漂っている。前著『人間に未来はあるか』で人類の暗い前途を予測し大反響を呼んだ著者は、本書において独自の視点から、変革の要因を探り、現代文明社会に対する、あるべき未来像、幸福な社会として、『擬似原始社会』という目標を大胆に設定し、いかにしてこれにアプローチするかを論ずる。一五〇〇円

東京都文京区本郷3

みすず書房

<叢書ヌヴェラージュ>

山本晴義著（福村叢書）

¥1200

若きマルクスとその批判者たち

最近の初期マルクス研究と、「フランクフルト学派」を初めとする西欧マルクス主義の隆盛を基礎に、マルクス主義の原則を改めて確認する。

ミシェル・ロヴィ／山内親訳

¥2400

若きマルクスの革命理論

ルイアルチュセル／西川長夫訳

¥1200

国家とイデオロギ―

福村出版

東京・文京区本郷4-2-3
振替口座 東京 78313

大間知篤三著作集

●全六巻／第1回配本Ⅱ第一巻

家の伝承

未来社

東京文京小石川3の7

日本民族の歴史と文化の根源を洗出す大間知民俗学の集大成。第一巻には、精密な事実の採集とその独自の分析に基づき『家の民間伝承』のほか、隠居と家に関する主要論文を収録する。解題Ⅱ竹田旦 月報8頁挿入。●A5判上製貼函入四五〇〇円

ドキュメント 昭和史

1 昭和初年 林 茂編

2 満州事変と二・二六 栗屋 編

3 日中戦争 内川芳美編

4 太平洋戦争 原田勝正編

5 敗戦前後 今井清一編

6 占領時代 相良竜介編

7 安保と高度成長 山田宗睦編

8 問われる戦後 伊藤光晴編

全8巻 各1000円

平凡社

東京千代田区四番町
振替・東京・29639

戦争論

ロジェ・カイヨワ

<われわれの内にひそむ女神ペローナ>
原始から近代に至る戦争の形態と理論を、国家の発達との関連において追求精神の奥底に潜む戦争礼賛の信仰を探り、この脅威の諸力からの人間回復は何かを提示。★国際平和文学賞受賞★
●りぶらりあ選書/秋枝茂夫訳/1600円

法政大学出版局 東京都港区南麻布2-8-4
〒106/振替・東京95814

編集代表 佐治守夫・水島恵一

臨床心理学の基礎知識

1300円

概念・技法・問題点の解明

《基礎知識シリーズ》近年注目を集めている臨床心理学の研究成果をわかりやすく簡潔に整理した入門書。概説的体系を備えた事典でもある。

東京神田神保町2

有斐閣

水=生命をくむもの

R. プラット/梅田敏郎 石弘之 西岡正訳

水の存在は生命誕生と深く関わっている。また生命あるものは水なくしては生きてゆけない。本書はこの日常親しい水に關して、その物理化学的性質から生命の誕生、水と生物との興味深いエピソード、原子力の熱汚染など多面的に取上げ、生命現象の本質と水の關係を最新の知識をもとに平易に解説する ■一四〇〇円

紀伊國屋書店 新宿3-17-7 東京12 55 75 東 京 振 新 宿 3-17-7 東京12 55 75

各界絶賛の「新版」
第二期刊行開始／第二期完結

日本随筆大成

第一期全22冊 刊行開始

昭和50年2月28日刊行開始
▼特価各二、三〇〇円(定価二、五〇〇円)
全22冊一時払前金(四六、〇〇〇円)
(一時払締切50年3月31日)
▼20日ごとに一冊ずつ配本(分売可)
▼第二期全24冊Ⅱ完結
セット特価四、〇〇〇円・定価各三、一〇〇円

東京文京本郷七一 吉川弘文館

河北新報社編集局編 むらの日本人

70年代・東北農民の生き方
誤解され、迷い続けてきた農民。その実像を求めて新しいタイプの日本人論を展開する。
九八〇円

■武谷三男・野島徳吉

現代生物学と弁証法

モノ「偶然と必然」をめぐって
進化論を弁証法的に追究。九八〇円

東京文京区後楽二二三 勁草書房
振替 東京 一七五二五三

ベルクハーン ムジール

田島範男・伊藤 寛 共訳
B6判変型 定価二二〇〇円

写真で読むロ・ロ・ロ伝記叢書
事物の仮象を離れ、内面のみ透徹した眼を注いだ文学者ムジール——文学史上画期的といわれた未完の大作「特性のない男」を遺して、無名のままに生涯を閉じた彼の足跡を刻明に辿る。

理想社 東京都新宿区赤城下町46
振替東京78303

新撰日本古典文庫2 将門記 校注・林 陸朗

今なお將軍塚として幾多の伝説をとどめる平将門の承平の乱の顛末を記した書。綿密な本文校訂の上に詳細な注釋・補注を付し他の記録との照合を行い、年表・地図・系圖を収録。A5判上製函入 価3600円

アトアルトー全集2

責任編集/栗津則雄・清水 徹
未知の人アルトーの巨大な謎へ、恐るべき思考と肉体の極北に位置するアルトーの全像を頭からにする。 予価30000円
東京文京区小日向1-24 現代思潮社
振替・東京724442

座マルクス主義 講研究入門

新しい時代に対応するマルクス主義理論の研究課題を積極的に展望する入門講座
*四六判上製

- 1 哲 学 芝田進午編
 - 2 政治学 田口富久治編
 - 3 経済学 金子ハル才編
 - 4 歴史学 永原慶二編
- 全4巻 完結
1-3各¥1300. 4¥1500

東京神田神保町一ノ六〇 青木書店

非売品